



# 六ツ川中だより

発行日：令和5年 12月20日(水) NO.8

発行者：横浜市立六ツ川中学校 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/mutsukawa/>

## 新しい年を迎えるにあたり

校長 妹尾 正彦

時が過ぎるのは早いもので、気がつけば師走のそれも下旬。3日後には実質冬休みに入ります。冬休みは夏休みに比べるととても短い休みという印象がありますが、今年度は代休や土日などを含めると半月以上の17日間もあります。7月の学校だよりにも書きましたが、ぜひ有意義な休みとするために次の3つを意識して生活してほしいと思います。

- ① 規則正しい生活を心がけ、ネットやゲームのやり過ぎに注意しましょう。
- ② 安全に気をつけましょう。帰宅時間、交通事故、インフルエンザなどの感染症など。
- ③ 主体的に学習に取り組みましょう。

さて、2023年も間もなく終えようとしています。保護者の皆様、そして地域の皆様の本校教育活動へのご理解・ご支援・ご協力のおかげで、何とか今年も無事に一年を終え、新しい年を迎えることができそうです。本当にありがとうございました。

新しい年を迎えるに当たり、私が恩師から教えていただいた話をご紹介します。

中国の古典「管子」に「一年の計は、穀を樹うるに如くは莫し。十年の計は、木を樹うるに如くは莫し。終身の計は、人を樹うるに如くは莫し。」という言葉があります。

一年で収穫するならば、確実に収穫の得られる穀物を植えるのがよく、十年で収穫するならば、木材などいろいろな用途がある木を植えるのがよく、一生のものならば人を育てるのがよいという意味のようです。

「計」とは計画のことですが、一年で達成できる「計画」は、きちんと種をまき、毎日水をやり育てることにより成果が現れ、十年の「計画」は、木の使い道など先のことを考えて育てていかなければならず、一生の「計画」は、そんなに簡単ではなく、紆余曲折ありながら育てていくものと言っているようにも思えます。この言葉は国家の人材育成の考え方のように、自分自身を育てることと読み替えれば、毎日コツコツ努力すること、先を見据えて努力すること、そして人としての生き方を追い求めることの大切さを説いているように思います。

「一年の計は元旦にあり」。年の初めに昨年の自分を振り返り、新しい年を祈願し、目標を立てて前に進もうとする日本の風習もあります。子どもたちには、十年先の理想とする自分の姿を思い描きながら、そのための一年の目標として、まずは毎日しっかりと取り組んで確実に力をつける目標や計画を立ててほしいと思います。その目標や計画は、人と比べる必要はなく、自分が選んだ種であってほしいと思いますし、心から収穫の喜びを実感できるものであることを望みます。

私たち教職員も2024年、学校生活が子どもたちにとって夢や希望を持ち、自分の進路や生き方について考える機会であるよう努力していきたいと思います。

また、私たち大人は、子どもたちに夢を語り、正義を説き、勇気を与えることを考えていかなければなりません。保護者の皆様、そして地域の皆様、どうぞ2024年もいろいろなところで六ツ川中学校を支えていただきたくお願い申し上げます。